摂食嚥下障害者の地域支援に必要な連携の取り組み

池浦一樹[1)]，井上誠[2)]，荻荘則幸[1)]，曽根清和[3)]，林宏和[4)]，張替徹[5)]，松田正史[6)]，吉岡裕雄[7)]

1）らぽーる新潟ゆきよしクリニック　2）新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野　3）曽根歯科医院　4）新潟大学医歯学総合病院口腔リハビリテーション科
5）新潟大学医歯学総合病院総合リハビリテーションセンター　6）松田内科呼吸器科クリニック　7）日本歯科大学新潟病院在宅歯科往診ケアチーム・総合診療科

入院中の摂食嚥下障害者が在宅の支援に移行する時の問題

・在宅支援において摂食嚥下障害者に必要な支援サービスがどこで行われているか周知されていない，もしくは不明な場合が多い．
・支援者や家族の視点では口腔内に焦点を合わす機会が少ない．
・摂食嚥下障害の診断基準が不明なため支援者や家族単位により理解に温度差がある．また、もう食べられなと諦めている場合が多い．

⇨ 地域や在宅支援に関わる医療・福祉関係者摂食嚥下障害者支援を知ってもらいたい．

⇨ 現場で働く支援者間の顔の見える関係を構築したい．

「　EVERYDAY 食べる会　“エブリデイ食べる．最期までおいしく，楽しく，幸せに．”　」　活動報告

概要

摂食嚥下障害者支援に従事する者，興味を持つ支援者などに声を掛け環を広げ在宅支援者間の交流を図り在宅支援に繋げる．

発足と開催頻度

〈発足〉2011年11月
〈開催頻度〉
・2ヶ月に1回程度，企画者による企画会議を実施
・2回/年（開催月未定）拡大版の会を実施

会の企画者

医師	2名
歯科医師	3名
介護支援専門員	1名
言語聴覚士	1名

拡大版の会の参加者

・医師
・歯科医師
・薬剤師
・介護支援専門員
・歯科衛生士
・報道関係者
・言語聴覚士
・理学療法士
・地域商工会委員
など

具体的活動

・歯科医師への在宅往診の依頼と情報提供
・研修会などでの啓発活動
・会開催時での症例検討
・学会発表時の発表内容の伝達
・懇親会の開催　　など

実際の活動風景

①親睦会の様子

医療・福祉関係者のみでなく
地元メディアや一般職種との
顔の見える形での交流

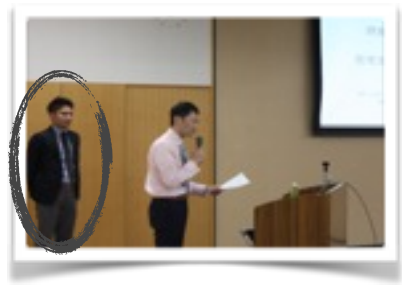
②在宅での歯科医師との連携

・担当者による在宅での食形態の検討
・外来での嚥下造影の検討
・在宅での嚥下内視鏡の検討

③にいがた摂食嚥下サポート研究会での様子

地域の現状を報告

④新潟市歯科医師会研修会での啓発活動



摂食嚥下リハには地域の歯科医師との
連携が重要と啓発活動を行っている

⑤face bookやホームページを作成した広報

企画者の望む会の活用法

・「おいしく食べる」を支援する関係者の意見交換と相談窓口
・家族や地域に向けた摂食嚥下障害の理解を求めた啓発活動
・食べられない,おいしく食べられない，またその人を支える家族を含めた生活者の生活の質が向上する活動

今後の課題

会を通して分かった問題点

・支援者や家族の摂食嚥下障害に対する理解には温度差がある．
・介護保険にてリハビリを行う際,利用上限額があり摂食嚥下リハビリの積極的な導入に繋がらない．
・通所，入所リハビリにおいてリハビリの請求がまるめなため必要最低限のリハビリの提供でとどまる場合がある．
・在宅において嚥下内視鏡検査を行える医療サービスがある事を理解していない．
・嚥下障害に気が付いておらず，重症化してから対応しようとする傾向にある．

⇨ 一方で…
・支援体制の整った事業所は少ない
・在宅にて嚥下内視鏡検査を実施できる環境が不十分

⇩ 具体的な対応
・商工会議所との連携による住民への啓発活動の企画
・新潟大学食医歯学総合病院との連携による啓発活動の推進
・地元割烹などとの連携による嚥下食弁当の企画

⇨ 地域の医療関係者・福祉関係者・住民に興味関心を持ってもらう重要性．

地域へ根ざした啓発 ⇔ EVERYDAY食べる会 ⇔ 地域で頑張る支援者間の顔の見える関係性の構築

Are You Happy ?　Everyday Eating !